

子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第6号（令和6年5月1日）

玉小の教育 Vol. 2 今年度、何をする？②

学力向上

学びの接続（一単位時間、社会・家庭）を図り、指導の工夫・改善に取り組みます。

一単位時間の中での接続（関わり合い）

昨年度研究主題「学びに向かう力」の育成～関わり合うことで、楽しく学ぶ子どもの育成～をさらに進め、今年度研究主題「学びに向かう力」の育成～関わり合うことで、考えを広げ深める子どもを目指して～に取り組みます。

○関わり合うとは

一方的に伝えるのではなく、互いに伝え合ったり話し合ったりすること

学びのステップ	めざす子ども像（こんなことができるようになって欲しい）		
	低学年	中学年	高学年
①考えをもつ	課題に対して、自分の考えをもつことができる。	課題に対して、情報を整理して自分の考えをもつことができる。	課題に対して、理由を明確にして自分の考えをもつことができる。
②考えを広げる	自分の考えをすすんで相手に伝え、相手の考えを知ることができる。	自分の考えを整理して伝え、相手の考えを理解することができる。	自分の考えを理由を示しながら伝え、相手の考えを理解することができる。
③考えを深める	相手の考えと自分の考えを比べることができる。	相手の考えと比べながら自分の考えをまとめることができる。	互いの考えの共通点や相違点を意識し、自分の考えを練り直すことができる。

昨年度の研究より

○自分の考えをもつことができる児童は多くなった。

- ・関わり合い意識調査結果での肯定的回答割合【80.7% (R5.4)⇒83.3% (R5.7)⇒86.3% (R5.12)⇒92.6% (R6.3)】
- ・友達の意見を参考にする場（ペア活動・タブレットで全体共有等）をたくさん設けることで、自分の考えをもちやすくなった。
- ・「自分の考えをもつため」「自分の考えを確かにするため」「自分の考えを広げるため」など、目的に合わせて交流できるようになってきた。

○自分の考えを「広げること」や「深めること」について一定の成果はあったが、「もつこと」と比べると、できにくい児童が多かった。

- ・関わり合い意識調査結果での肯定的回答割合【53.6% (R5.4)⇒73.7% (R5.7)⇒77.4% (R5.12)⇒72.2% (R6.3)】
- ・自分の考えを伝えることはできるが他の人の考えを聞くことがやや苦手である。

そこで「自分の考えをもつ」段階から、対話を通して、「考えを広げ深める」段階に進むための研究をすることになりました。子ども達が考えを広げ深めるためには、対話的な学びにならないと実現しないです。つまり子ども同士、子どもと先生・地域の方、昔の偉人の言葉などをてがかりに【会話】ではなく【対話】をする必要があります。

【会話】と【対話】の違い

【会話】…テーマに対して、互いに自分の考えを言い合って終わるようなもの。おしゃべり。

(例) A「〇〇だと思う。」 B「〇〇なんだね。」

A「〇〇だと思う。」 B「●●だと思う。」

【対話】…テーマに対して、互いに自分の考えを言い合い、聴き合い、それによって自分の考えと同じところや違うところを見つけ、自分の考えに取り入れたり、新しい考えにつなげたりするもの。

(例) A「〇〇だと思う」 B「〇〇なんだね。なぜ〇〇だと思うの？」

A「〇〇だと思う」 B「〇〇の△△のところはどういうことか教えて」

◎このような対話が生まれると自分の考えが広がります。その上で、自分の考えが変わらないことも当然ありますが、以下の例のような深まりがあると考えます。

(例) B「Aさんの〇〇という考え（〇〇の中の△△のところ）は自分の考えにはなかったもので、〇〇や△△を取り入れて、□□の考えになった。」

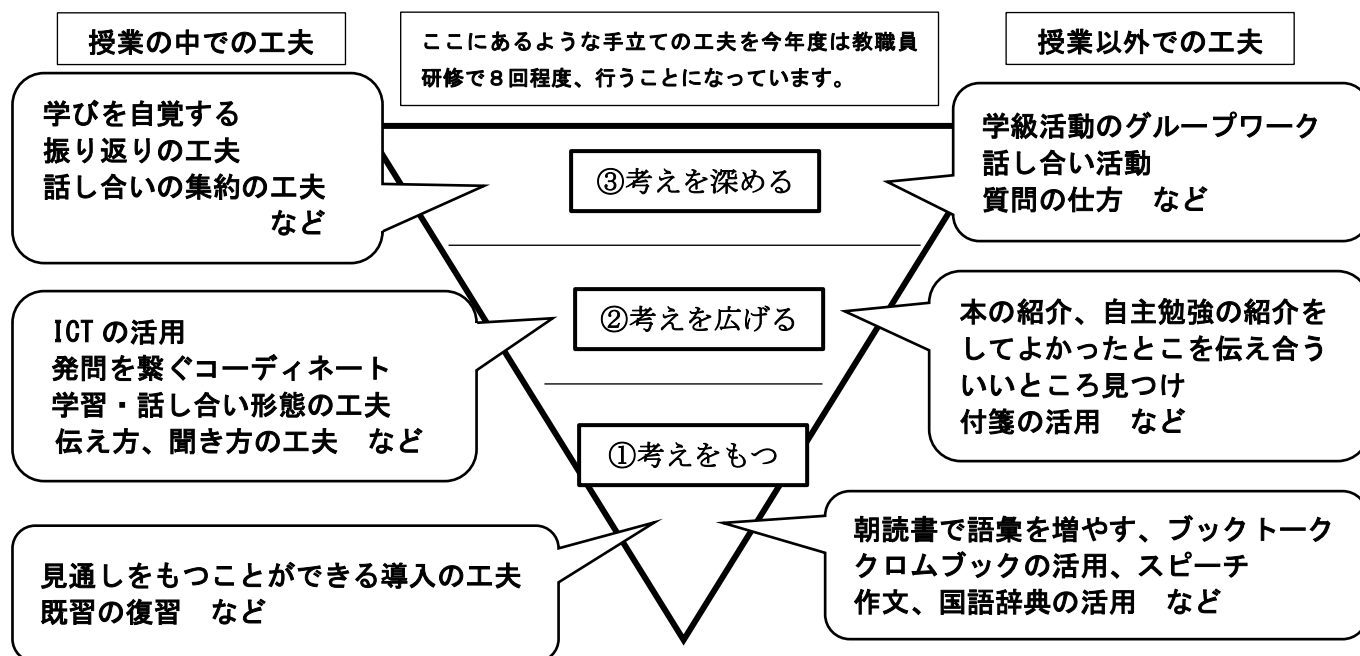
B「Aさんの〇〇という考えを自分の考えに取り入れて、◇◇の方法を見つけた。」

B「Aさんの〇〇という考えと自分の考えを合わせて、◇◇の問題を解決できた。」

◎【対話】をするには【話すこと】よりも【聴くこと】の方が大切だと言われます。子ども達が相手を理解しようと一所懸命聴くことを頑張れるようにしたいと考えます。

◎なお授業によっては、基礎基本を教え込まなければならない内容もあります。

子ども達が考えを広げ深められる手立て (本校研究概要より)



家庭との学びの接続

クロムブック（1人1台貸与しているもの）の活用

現在、授業ではクロムブックを活用して、調べ学習や発表・まとめ、考えの共有などを行っています。それに加え、今年度、玉野市がA Iドリルを導入してくれました。このA Iドリルでは、それぞれの子どもの学習のつまずきに応じた問題設定をします。以前の学年のドリルをすることで学び直しにもつながります。

今後、高学年から順次、クロムブックを持ち帰り、学習習慣をつけることや自分のペースで学習を進めていくことを目的にA Iドリルの活用をしていきます。準備が整い次第、お知らせします。